

Jアラートと連携する情報伝達手段の多重化推進

基本的なアプローチ

1. 多数の住民に一斉に情報伝達ができる市町村防災行政無線(同報系屋外スピーカー)又は同等の機能を有するその他の無線の導入・連携を検討する。
2. 屋外スピーカーだけでは屋内において放送が聞こえにくい場合があるため、戸別受信機等屋内向け情報伝達手段の導入・連携を検討する。
3. 地形等の観点から市町村防災行政無線等の導入が適さない場合は、他のプッシュ型伝達手段[※]の導入・連携を検討する。
4. 音声による情報伝達手段に加えて、スマートフォン等を利用した文字による情報伝達手段の導入・連携も検討する。
5. 公共施設や学校において館内・校内に設置されている放送設備を自動起動できるように検討する。

※プッシュ型伝達手段とは緊急情報を受け取る時に、住民が特段の行動を必要としない手段のこと。

現在Jアラート受信機と連携している情報伝達手段別の多重化イメージ

1 市町村防災行政無線等、屋外スピーカーのみの場合

▶ 屋内や情報伝達が難しい場所(大都市部等)でも情報伝達ができるようにする

- ▶ 屋内でも放送が聞こえるよう戸別受信機等屋内向け情報伝達手段を導入する。
- ▶ 文字による情報伝達手段として登録制メールやデジタルサイネージを導入する(特に人口密集地で有効)。

【導入候補手段:別紙②、④、⑨、⑩、⑪、⑫】

2 登録制メール等、文字による伝達手段のみの場合

▶ 住民が緊急情報に気付きやすいよう音声による情報伝達手段を導入する

- ▶ 音声による情報伝達ができる市町村防災行政無線や同等の機能を有するその他の無線を導入する。
- ▶ 市町村防災行政無線の導入が適さない場合、音声告知端末、コミュニティ放送等を導入する。

【導入候補手段:別紙①、②、③、④、⑥、⑦、⑧、⑨】

3 コミュニティ放送・CATV等、屋内伝達手段のみの場合

▶ 屋内だけでなく、屋外も含めて広く住民に向けて情報伝達できる手段を導入する

- ▶ コミュニティ放送においては自動起動ラジオ、CATVにおいては画面表示される自動起動装置を導入する。
- ▶ より広く住民へ伝達するためにコミュニティ放送の情報を屋外スピーカーへ連携させる。

【導入候補手段:別紙①、②、③、④】

4 音声告知端末等、有線回線による伝達手段のみの場合

▶ 無線回線による情報伝達手段を導入する

- ▶ 無線通信も行える市町村防災行政無線や同等の機能を有するその他の無線を導入する。
- ▶ 登録制メール、スマホアプリ等個人向け情報伝達手段を補完的に導入する。

【導入候補手段:別紙①、②、③、④、⑦、⑩、⑫】

(別紙)Jアラートに連携する場合の各情報伝達手段の特性

	手段	特性	長所	短所
①	市町村防災行政無線 (同報系屋外スピーカー)	同報的に住民へ情報を伝達できる	<ul style="list-style-type: none"> 同報的に情報伝達できる 	<ul style="list-style-type: none"> 天候、場所(ビルの間)等により聞こえにくい場合がある
②	市町村防災行政無線 (戸別受信機)	屋外スピーカーの音声不明瞭な場所に設置することで、情報を正確に伝達できる	<ul style="list-style-type: none"> 主に屋内へ情報伝達できる 	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所によってはアンテナが必要となる
③	その他の無線 (屋外スピーカー)	同報的に住民へ情報を伝達できる	<ul style="list-style-type: none"> 同報的に情報伝達できる 	<ul style="list-style-type: none"> 天候、場所(ビルの間)等により聞こえにくい場合がある
④	その他の無線 (屋内受信機)	屋外スピーカーの音声不明瞭な場所に設置することで、情報を正確に伝達できる	<ul style="list-style-type: none"> 主に屋内へ情報伝達できる 	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所によってはアンテナが必要となる
⑤	館内・校内放送	人が密集している場所で情報伝達が有効となる	<ul style="list-style-type: none"> 滞在者が多い施設で有効となる 	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達の範囲が限定的である
⑥	音声告知端末 (IP告知端末)	様々な端末(スマートフォン、タブレットPC等)に情報伝達可能である	<ul style="list-style-type: none"> 様々な端末(スマートフォン、タブレットPC等)と連携できる 	<ul style="list-style-type: none"> 有線接続であるため災害に弱い場合がある
⑦	コミュニティ放送	自動起動ラジオも導入すると自動で最大音量で情報が放送される	<ul style="list-style-type: none"> 運転中の人も含め、ラジオを聞いている人に向けて情報伝達できる 	<ul style="list-style-type: none"> 地域によっては放送局がない
⑧	CATV放送	自動起動装置も導入すると自動で情報を画面表示可能となる	<ul style="list-style-type: none"> 文章による情報伝達及び音声による情報伝達ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 通常の受信機であれば住民による起動が必要となる 有線接続であるため災害に弱い場合がある
⑨	登録制電話	屋内外で関係なくスマートフォン等に情報伝達が可能であり、固定電話へも伝達できる	<ul style="list-style-type: none"> 着信音が鳴ることで住民が気づきやすい 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ電話番号の登録が必要 有線接続であるため災害に弱い場合がある 登録数が増えると情報伝達に遅延が発生する可能性がある
⑩	登録制メール	屋内外で関係なくスマートフォン等に情報伝達が可能である	<ul style="list-style-type: none"> 身近にあるスマートフォン等へ情報伝達ができる 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめメールアドレスの登録が必要 登録数が増えると情報伝達に遅延が発生する可能性がある
⑪	デジタルサイネージ	人口密集地において、緊急情報に気づきやすい	<ul style="list-style-type: none"> 映像と音声を組合せることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 機器周辺にいる一部の人にしか伝達できない 有効に住民へ情報を伝達するためには設置場所が限定される
⑫	スマホアプリ	スマートフォンにインストールすることでプッシュ型の情報伝達手段となる	<ul style="list-style-type: none"> 着信音によって緊急情報を覚知し、文章によって内容を確認できる 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンでしか利用できない 情報伝達に遅延が発生する可能性がある